11月号

いしかわ 情報ニュース

社会福祉法人　石川県聴覚障害者協会
石川県聴覚障害者センター　fax076-261-3021

ひとり一人のろう者の生活と権利を守る「砦」

第4回 全国高校生 手話パフォーマンス甲子園

田鶴浜高校(石川)が4度目の本選出場！

10月1日（日）、「第４回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」が鳥取県鳥取市で開催され、全国から54チームが応募し、予選を勝ち抜いた20チームが大会本選に挑みました。手話劇や手話ソングなど高校生の若さと熱気あふれるパフォーマンスで競い合い、今年は奈良県立ろう学校が優勝しました。本県からは、今年も石川県立田鶴浜高校手話部の皆さんが応募し、予選を突破し、第１回より４回連続での本選出場を果たしました。

石川県聴覚障害者協会の皆様をはじめ、多くの皆様のご支援を戴き出場することができました。

昨年同様テーマ選びに大変苦悩していた時、４年前の第１回大会に出場した生徒の感想を鮮明に思い出しました。「障がいのある人にも私たちと同じように老いや健康の問題がやってくる。その時に安心して介護や医療を受けていただけるように私たちが頑張っていきたい」――――そんな思いを引き継いで、今年は「認知症」の問題を取り上げることにしました。

「認知症になっても安心して暮らせる社会」について手話パフォーマンスを見てくださる皆さんと考えたいと決意したものの、華やかな内容でもなく、パフォーマンスとして適しているのか、高校生に表現しきれるのかなど、スタートしてからも迷いは尽きませんでした。しかし、このテーマに真摯に向かい合うことで、私たち自身の思いや学びを深めることができました。また、本校健康福祉科の１～３年生は、先日揃って「認知症サポーター」の養成講座を受講し「地域に生きる私たちにできる小さな一歩」を踏み出すこともできました。

大会出場の切符を何とか手に入れ、１０月１日、2000 人収容の大きなホールでの本戦を迎えました。他校の華やかなパフォーマンスが進行する中で、自分たちの精一杯の思いを表現することができました。パフォーマンスを終えて「認知症という重いテーマではあったが、充分に伝わった。若い高校生と認知症問題に直面している大人が一緒になり取り組むことが大切だと改めて感じた」という評価をいただきました。とても嬉しかったです。同年代の聾学校の仲間、他県の高校生との交流という、貴重な経験もできました。

結果は、５位。そして「鳥取県聴覚障害者協会賞」をいただくことができました。これを励みに、私たちが「手話を言語」として自由に活用できる力を身につけられるように、研鑽を積んでいきたいと改めて思いました。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

（田鶴浜高等学校手話部顧問　古田佳代）

【北陸中日新聞】10月４日　→

幸せな老い 全身で訴え

田鶴浜高生 手話甲子園で３度目入賞

鳥取市で一日あった「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」で鳥取県聴覚障害者協会賞に選ばれた田鶴浜高校（七尾市）の手話部。認知症をテーマに、高齢者が安心して暮らせる社会への願いを表情豊かに演じて、三度目の入賞に輝いた。（鈴木弘）

出場したのは三年の奥村美紅さん（十七）、西野留那さん（十七）、川村梨紗さん（十七）、二年の石黒亜友美さん（十七）の四人。川村さんが裏方のエンジニアを務め、ほかの三人がパフォーマーとして舞台に立った。

二〇〇六年に京都市で起きた事件を基に、介護に疲れた息子が認知症の母を手にかけるまでを再現。問題はひとごとではないとして、関係者を支える認知症サポーターを紹介し「誰かが一歩を踏み出せば社会は変わる」「老いを幸せと感じられる社会をつくる」と全身で訴えた。

介護福祉士や看護師などを目指す生徒らは一年生から高齢者施設などで研修し、介護現場の過酷な現状を目にしていたことから多くの人たちと課題を共有しようと認知症を今回のテーマに選んだ。

大会には予選を通過した全国の二十チームが参加、歌や演劇、ダンスなど八分以内のパフォーマンスで手話の正確さやメッセージ、表現力などを競った。

四年連続出場の田鶴浜高は、優勝（二〇一四年）、審査員特別賞（一五年）に続き、今回で三度目の入賞となった。審査員からは「重たいテーマによく取り組み、日本の在り方を考えるきっかけになった」などと評価されたという。

部長の奥村さんは「やり切ったと思う」と話し、西野さんは「練習してきた表情や感情が本番でも出せた」と充実した様子。選手宣誓も務めた石黒さんも「全力を出し切れた」。川村さんは「三人のサポートができた」と振り返った。

全国大会入賞を果たし笑顔の生徒たち。中央2人の手話は「アイラブユー」＝七尾市の田鶴浜高で

第 20 回記念 日本聾史学会金沢大会 開催ご案内

■第一日　11 月 25 日(土)　12：30 より受付

ところ　石川県社会福祉会館　4 階中ホール

●基調講演　「聴覚障害教育の黎明期」

講師　坂井美惠子氏（元大阪府立堺・生野聾学校校長）

（現大阪教育大学、同志社大学他で非常勤講師）

●トークショー「石川県立ろう学校の歴史

（ろうあ校長：松村精一郎と創立者：上森捨次郎の生涯）」

聾史学会会員の橘勇一氏と美多哲夫氏が語る

■第二日　11 月 26 日(日)　9：00 より

●手話による研究発表　（学会会員）

●フィールドワーク　（聾史探訪）　13：30 より

「金沢盲唖学校跡地記念碑」（かがやきRによる手話観光ガイド）

★参加費　学会会員 3,000 円　一般参加者 4,000 円（２日間）

★二次募集締め切り　11 月 14 日(火)まで

* 詳しい案内書は、石川県聴覚障害者協会・金沢市聴力障害者福祉協会の事務所にあります。
* 聾の歴史に興味があって、大会運営のお手伝いをしていただける要員を募集しています。

手話通訳付きイベントのご案内

平成２９年度　心の教育推進大会

【日　時】　11 月３日（金・祝）１３：３０～１５：３０

【場　所】　石川県地場産業振興センター　新館コンベンションホール
（金沢市鞍月２丁目 1）

【内　容】　◇心の教育推進感謝状贈呈　「親子の手紙」表彰・朗読
◇講演
「こころ元気な大人が、子どもの未来を築く！
～豊かな心を育むコミュニケーション～」
講師：　鎌田　敏氏（こころ元気研究所　所長）

過労死等防止対策推進シンポジウム

【日　時】　11 月 16 日（木）１４：００～１６：３０

【場　所】　石川県地場産業振興センター　本館　第３研修室
（金沢市鞍月２丁目 1）

【内　容】　◇基調講演
「働き過ぎの労働者の疲れ、眠り、つらさをどのように考えるか」
◇講演
「過労死を生み出さない働き方とは」
◇事例紹介
過労死等の防止に向けた企業の取組事例

下記ホームページをご覧いただき、事前お申込みをお願いします。

https://www.p-unique.co.jp/karoushiboushisympo

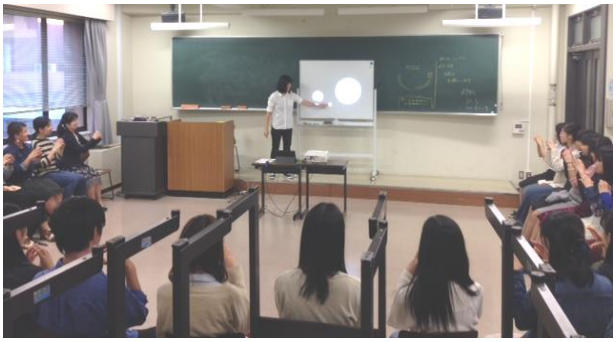
2017年度石川県登録要約筆記者試験(全国統一試験)について

受験申込の詳細については、後日、本誌及び当センターホームページ等でお知らせする予定です。

■日　　時：2018 年 2 月 18 日（日）午後 1 時～午後 3 時半（予定）
■会　　場：石川県社会福祉会館
■申込期間：12 月 1 日（金）～12 月 20 日（水）
■申 込 先：石川県聴覚障害者協会

※要項等の詳細は 12 月 1 日より当センターホームページに掲載します。

手話奉仕員養成講座 at金沢大学＜入門編＞開講



金沢大学の学生、大学院生、教職員を対象とした養成講座が開講しました。昨年から開始された当講座は金沢大学障がい学生支援室が企画。地域の手話奉仕員養成講座と同等の修了証を取得することが出来ます。開講にあたり、10 月 6 日にオリエンテーションが行なわれ、約 80 名の学生が集まりました。

抽選の結果、30 名の方が初講日を迎えました。初めは緊張した面持ちの受講生でしたが、講座が進むにつれ笑顔が見え、手話への興味を深めていきました。

Ｈ２９年度　手話通訳者と要約筆記者の健康対策　受診結果

A	異常なし	10 人
B	支障なし	13 人
C	生活改善と経過観察	14 人
D	受診が必要	7 人
E	治療中	10 人
P	急いで受診	0 人
T	他の病気が疑われます。精密検査をうけてください。	3 人

今年度の頸肩腕障害検診は、57名の方が受診されました。
この検診は、健康管理をしていく上でとても大切です。継続し、1年に1回必ず受けましょう。

能登就労支援事業所

やなぎだハウスだより

出来上がったトックリ

9月20日（水）レクリエーション学習

当事業所では毎月第 3、第 4 水曜日に利用者の希望要望を受け、レクリエーション学習に取り組んでいます。

今回、能登町宇出津にある海洋漁業科学館を見学しました。見学後、イカのトックリ作りの体験を行いました。皆さん、楽しそうに作っている様子でした。

イカのトックリ作り教室にて

---

9 月27日（水）誕生会

9 月に誕生日を迎えた方は酒井恵一さんでした。

酒井さんの希望で、当事業所から車で１５分程のところにある、農家レストラン『能登日和』へ伺いました。定食の中身は　地元で栽培された野菜ばかりで、とても美味しかったです。

『定食のメニュー』

精進料理のような味わい深いお味でした。

レストランの農家はとても古く、料理の器は輪島塗を使用しており赤色がとても美しかった。お料理を、とても美味しく頂きました。お腹がいっぱいになり良かったです。

（酒井恵一）